

医療安全だより

発行2019年10月
VoL.33

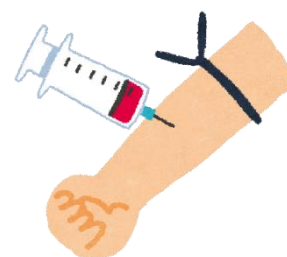
病院でよく実施される検査、というと何が思い浮かびますか？

いろいろな検査がありますが、「採血」を思い浮かべる方が多いと思います。

採血は、看護職や臨床検査技師、医師が日常的に行う技術のひとつといえます。

こうかん会では、採血を正確に、スムーズに行うために、定期的に教育、手技の再確認を行っています。今回は、この「採血」について紹介します。

採血について



● 採血とは

採血には、静脈からと動脈からの2種類の方法があります。動脈からの採血は医師しか行うことができないため、多くの採血は静脈からの採血になります。

● なんで採血をするの？

血液検査の目的は大きく分けて2つあります。1つは体に大きな異常がないかを確認するため、もう1つは、症状の程度や治療の経過を見るためです。つまり、同じように採血していても、患者さんの状態に合わせて検査の内容が変わっていることもあるのです。

● 採血管のこと

検査項目によって、採血管の種類や本数が変わります。それに伴い採血量も変わります。採血管の中には様々な薬が入っており、種類によって薬は違います。採血の後、採血管を振っているのは採血管の中の薬と血液をよく混ぜるためです。



採血！・・・のその前に

採血の前に、**医療安全・医療事故防止のため**、お名前やお誕生日から**本人確認を行っています**。

何度もお名前の確認をしますが、ご協力をお願いします。また、採血時にご協力いただきたい事・採血で起こりうる合併症について、ポスターを掲示しています。

採血前にご一読いただき、疑問点や不安な事があれば、お気軽にご相談ください。

採血を受けられる患者様へのお願い

採血室では、安全で確実な採血を行うために以下のことをお願いしています。

ご協力くださいますようお願い致します。

ご本人確認

「採血取り間違い防止」のため、ご自身の**姓名・誕生日**を名のっていただいています。

下記に該当する患者さまはスタッフにお申し出下さい。

- 採血時にご気分の悪くなる方
- 消毒用アルコールや手袋（ラテックスなど）にアレルギーをお持ちの方
- 止血テープ、絆創膏でかぶれる方
- 血液透析中の方
- 乳房切除手術を受けられた方
- 血液をサラサラにするお薬（抗凝固剤・抗血小板薬）を服用中の方



採血時の疑問などご不明な点は、
遠慮なくスタッフにお尋ね下さい。

こうかん会 水江診療所

採血に伴う合併症について

採血は基本的には安全な手技であり、合併症の頻度は極めて少なく軽症なものが多いとされています。しかし、ごく稀に以下のような症状を生じるとの報告があることをご承知ください。

◎止血困難・皮下血腫

採血後の不十分な止血操作などが主な原因です。

当院では、針を抜いたあと止血のために、3～5分間押さえていただきます。

◎アレルギー

採血時の消毒用アルコール・スタッフの手袋(ラテックス)・止血テープ・絆創膏などのかゆみ・発疹といったアレルギー症状が出る場合があります。

◎神経損傷

採血後も手指へ広がる痛み・しびれなどの持続症状がありましたら、お申し出下さい。(採血は針を刺すため、痛みを伴います。)

※約1万回～10万回の採血に1回の頻度で起こるとされています。

◎CRPS (複合性局所疼痛症候群)

採血後、採血側の腕に①痛み②腫脹③こわばり④皮膚の色調変化⑤発汗と温度の変化などの症状が稀に起こる事があります。

◎血管迷走神経反応

採血により一時的に血圧が低下するために、めまい、気分不快感、意識消失などを引き起こすことがあります。

(ベットでの採血を希望される方はお申し出下さい。)

※ これらの合併症が起きた場合には**最善の処置**を行います。

(なお、その際の医療は**通常の保険診療**となります。)

合併症についてわからないことがございましたら、**主治医または採血担当スタッフ**にお尋ね下さい。

こうかん会 水江診療所

いざ、採血！



- 上着を脱いで、肘から上が出るように袖をまくってください。

基本的には利き腕ではない方で採血をします。しかし、場合によって(乳がんの術後や血液透析中の方、血管が見えにくい方など)、反対の腕で採血をすることもあります。また、採血は座って行いますが、過去に採血前後で気分不快や意識消失を生じた事がある方は、横になった姿勢で採血をします。遠慮なく伝えてください。

- 駆血帯を腕にまき、針を刺す血管を探します。

血管が見える人と見えない人がいますが・・・個人差ということに他なりません。当日の体調によっても変わります。そのため時間がかかる事もありますが、ご理解・ご協力をお願いします。

！採血しやすくなるポイント！ 採血する側の腕を、心臓より下にする・温めることで、血管が確認しやすくなります。また、リラックスする事も重要です。

- 針を刺す部位の周囲を消毒します。

基本的にはアルコール綿を使用しますが、赤くなったり、かゆくなったりしてしまう人もいます。その場合は別の消毒薬を使用するため、事前に確認をしています。

- 針を刺します。

針を刺した時には痛みを伴います。手がしびれる・とても痛い場合は我慢せずに伝えてください。

- 採血後

すぐに血液は止まりません。5分間以上圧迫して血液を止めてください。 止血が十分でなかったり、揉みながら押さえたりすると、内出血や血液がテープから漏れ出てくる原因になります。止血が確認できたら、テープは外しても大丈夫です。

内出血は、時間経過で青から黄色になり、10日前後で自然に消えていくので、様子を見てください。痛みやしびれ、内出血の範囲が広がっていく場合は、ご連絡ください。



しっかり押さえてください。
採血の後、揉みながら押さえるのはNGです。

採血に伴う合併症

採血での合併症発生の頻度は高くないですが、以下のような合併症を生じる可能性もあります。

- **皮下出血・皮下血腫**

採血後の不十分な止血が主な原因です。

- **アレルギー反応**

消毒用アルコール、手袋(ラテックス)、止血テープなどによるアレルギーが原因です。

かゆみや発疹などが出る場合があります。

- **神経損傷**

手指へひろがる痛みやしびれなどの症状が出る場合があります。多くは1週間以内に、大部分は3ヶ月以内に改善します。 ※約1万～10万回に1回の頻度で起こるとされています。

- **CRPS(複合性局所疼痛症候群)**

痛み・腫脹・こわばり・皮膚色の変化・発汗と温度の変化 などの症状が出現します。

採血による発症率は不明ですが、近いものとして、日本赤十字社が実施している献血の場合、50万人に1人程度が発症していると言われています。

- **血管迷走神経反応(VVR)**

一時的に血圧が低下した結果、めまい・気分不快感・意識消失などを引き起こします。



最後に

こうかん会では、採血者は採血マニュアル及び標準採血法ガイドラインに沿った採血の教育を受けています。教育内容や採血手技については、定期的に再確認し、採血室教育チェックリストを用いて採血の基本について継続確認を行い、安心安全な採血を心がけています。

ですが、どれだけ注意を払っても、1回の採血で必要な量が採取できず、再度採血をする場合があります。また、採血に伴う合併症が起きる場合もあります。痛みを伴う検査ですが、ご理解・ご協力をお願いします。

～水江診療所 京浜保健センターの紹介～

今回の医療安全だよりは水江診療所が担当しています。

水江診療所・京浜保健センターは、JFEスチール(株)東日本製鉄所(京浜地区)構内に立地しています。

「水江診療所」は、主に内科診療を行っています。製鉄所で働く方はもとより、OBを含め地域の方の診療もしています。診療所で出来ない検査などは、鋼管病院の予約が取れるようになっています。

「京浜保健センター」は、製鉄所で働く方々の一般健康診断、特殊健康診断、健康相談、適正配置面談、健康教育、職場巡視など、産業保健活動を行っています。

職員一同、利用者の方々のよりよい健康状態の維持、疾病予防のために活動しています。

